

# 日本 ASEAN 友好協力 50 周年の ビジョン実現に向けて

ASEAN 日本政府代表部大使  
紀谷 昌彦



2023年12月に東京で開催された日本ASEAN 50周年特別首脳会議後の共同議長記者発表（内閣広報室）

## ■はじめに：特別な年を未来に生かすために

2023年は、日本とASEAN、そしてインドネシアにとって特別な年でした。日本ASEAN友好協力50周年という記念すべき年にインドネシアがASEAN議長国を務め、さらに日本インドネシア外交関係樹立65周年を迎えたからです。6月に天皇皇后両陛下がインドネシアをご訪問になり、9月にジャカルタでASEAN関連首脳会議が開催され、12月に東京で日本ASEAN友好協力50周年特別首脳会議が開催されました。

ASEAN日本政府代表部は「月刊インドネシア」編集部から、この特別な1年を振り返るとともに、将来の協力のあり方を考える連載の機会をいただきました。今回は総論で、次回以降に社会・文化、経済、政治・安全保障を順次取り上げます。これから日本とASEAN、インドネシアの未来に向けて、幅広い分野で皆様と一緒に考えを深め、取り組みを進めていければ幸いです。

## ■日本とASEANの50年を振り返り、将来を考える一年間

私が2022年11月末にジャカルタに着任した時には、日本ASEAN友好協力50周年に向けての準備がすでに着々と進んでいました。

岸田総理は2022年5月の日経フォーラム「アジアの未来」スピーチで、日ASEAN関係を新たなステージに引き上げるためのビジョンをASEAN各国とともに打ち出すことを目指すと表明しました。同月、内閣官房に日本ASEAN友好協力50周年有識者会議が設置され、7月には経済産業省・JETROは日本の経済

界とともに日 ASEAN 経済共創ビジョン策定プロジェクトを開始しました。8月の日 ASEAN 外相会議では一般公募作品の中から選ばれた 50 周年のロゴマークとキャッチフレーズ「輝ける友情 輝ける機会」を発表し、12 月には日本アセアンセンターが 50 周年特設ウェブサイトを開設して 50 周年記念事業の公募も開始しました。

2023 年は、日本と ASEAN の 50 年を振り返り、将来を考える一年間となりました。2月3日、50 周年有識者会議は報告書を政府に提出し、新たな日 ASEAN 協力パートナーシップの 3 つの柱として、(1) 自由で開かれたルールに基づく公正な地域秩序の構築、(2) 経済発展・持続可能性・公正性が充足した共生社会の実現、(3) 相互理解と相互信頼の醸成を提示しました。この報告書は政府が特別首脳会議に向けた検討を進める上での基盤となりました。また、経済産業省、日本貿易振興機構（ジェトロ）及び日本商工会議所をはじめとする経済界は、8月に官民共同で日 ASEAN 経済共創ビジョンを公表し、4 つの柱として、(1) 多様性・包摂性を両立する持続可能な経済社会の実現、(2) 国境を越えたオープンイノベーションの推進、(3) サイバー・フィジカルコネクティビティの強化、(4) 活力ある人的資本を共創するためのエコシステムの構築を提示しました。

2月13日、キックオフ行事として日本 ASEAN50 周年記念シンポジウムがジャカルタで開催されました。林外務大臣（当時）、議長国のルトノ・インドネシア外務大臣、対日調整国のドーン・タイ副首相兼外務大臣（当時）がビデオメッセージを寄せ、カオ・キムホン ASEAN 事務総長や ASEAN 各国常駐代表をはじめ要人が多数参加しました。この機会に、林大臣はインド太平洋に関する ASEAN アウトルック（A0IP）主流化に対する日本の支援の三本柱を発表しました。さらに、3月に岸田総理は訪問先のインドで「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」のための新たなプランを発表し、ASEAN を重要地域と位置づけるとともに、日 ASEAN 統合基金（JAIF）への 1 億ドルの新規拠出を発表し、ASEAN との関係強化していく姿勢を示しました。



Golden Friendship, Golden Opportunities  
輝ける友情 輝ける機会

日本 ASEAN 友好協力 50 周年のロゴマークとキャッチコピー

### ■閣僚会合を始めさまざまな行事・イベントを開催

そして、2023 年を通じて日 ASEAN 間では 13 もの閣僚級会合が相次いで開催され、各種のイニシアティブが新たに打ち出されました。7月の東京での特別法務大臣会合では共同声明とワークプラン、8月のインドネシアでの経済大臣会合では「日 ASEAN 経済共創ビジョン」と「未来デザイン&アクションプラン」、ラオスでの環境気候変動閣僚級対話では「日 ASEAN 環境気候変動プログラム（SPACE）」、9月のタイでのスポーツ大臣会合では「チェンマイ宣言」、10月のマレーシアでの農林大臣会合では「日 ASEAN みどり協力プラン」、東京での観光大臣特別対話では共同声明、11月のラオスでの交通大臣会合では「ルアンパバーン・アクションプラン」、インドネシアでの防衛担当大臣会合では「防衛協力強化のための日 ASEAN 大臣イニシアティブ（JASMINE）」がそれぞれ発表され、幅広い分野でのコミットメントが表明されました。

9月にはジャカルタで ASEAN 関連首脳会議が開催され、岸田総理が出席しました。総理は主要行事の ASEAN インド太平洋フォーラム（AIPF）で「日 ASEAN 包括的連結性イニシアティブ」を発表した他、日 ASEAN 首脳会議で包括的戦略的パートナーシップ（GSP）を立ち上げる共同声明を採択しました。

政府間行事のみならず、日本アセアンセンターは、動画キャンペーン、模擬 ASEAN+日本、インド太平洋ハッカソンなど若者向けの行事を開催し、幅広い団体による 50 周年記念行事を



2023 年 9 月に開催された日 ASEAN 首脳会議でスピーチを行う岸田首相（内閣広報室）

支援しました。ASEAN 日本政府代表部も、9～10 月にはジャカルタで日 ASEAN フェア、11 月にはハイブリッドでウォーク&ランやゴールデン・ミッション・ゲームを開催し、日 ASEAN 協力を紹介するキャラクター「JABOT」による広報も行いました。

### ■日本と ASEAN の新しいビジョンと実施計画

日本 ASEAN 友好協力 50 周年の締めくくりとして、12 月 16 日から 18 日まで、東京で日本 ASEAN 友好協力 50 周年特別首脳会議が開催されました。ASEAN 加盟国（ミャンマーを除く）及び東ティモール（オブザーバー）の計 10 か国から首脳が訪日し、全体行事として 16 日に迎賓館で総理夫妻主催晩餐会、17 日に特別首脳会議、共同議長記者発表、東京タワー点灯式典とガラディナー、18 日にアジア・ゼロエミッション共同体（AZEC）首脳会合、経団連・日商共催昼食会と宮中お茶会が開催されました。この機会に、各国首脳と総理の二国間の会談をはじめ、各種の会談やサイドイベントも開催されました。

日本 ASEAN 特別首脳会議では、「日本 ASEAN 友好協力に関する共同ビジョン・ステートメント」と「実施計画」が採択されました。「共同ビジョン・ステートメント」は、「信頼のパートナー(Trusted Partners)」を副題として、「共通の原則及び価値が保障され、全ての国が平和及び繁栄を追求でき、民主主義、法の支配及び良い統治並びに人権及び基本的自由の尊重の原則が守られる世界を目指す」とのビジョンを掲げ、「世代を超えた心と心のパートナー」、「未来の経済・社会を共創するパートナー」、「平和と安定のためのパートナー」の 3 つの柱を打ち出しました。「実施計画」は、それに沿った形で具体的協力を示す文書で、130 項目が記載されています。

#### ●実施計画（共同ビジョンステートメント別添）の採択

共同ビジョン・ステートメントの 3 つの柱に沿った具体的協力の項目を示す文書。  
（合計 **130 項目**。40 周年時の実施計画は 75 項目。）

#### 実施計画に記載されている主要協力分野

1. 世代を超えた心と心のパートナー	2. 未来の経済・社会を共創するパートナー	3. 平和と安定のためのパートナー
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 青年交流</li> <li>✓ 文化交流</li> <li>✓ スポーツ</li> <li>✓ 観光</li> <li>✓ 語学</li> <li>✓ 教育</li> <li>✓ 科学・技術</li> <li>✓ ASEAN事務局支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 経済</li> <li>✓ 金融</li> <li>✓ 連結性</li> <li>✓ 気候変動</li> <li>✓ エネルギー・重要鉱物</li> <li>✓ 環境</li> <li>✓ 防災</li> <li>✓ 保健</li> <li>✓ デジタル</li> <li>✓ 宇宙</li> <li>✓ 農業・食料システム</li> <li>✓ 社会課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 法の支配</li> <li>✓ 海洋安全保障</li> <li>✓ 防衛</li> <li>✓ WPS・YPS</li> <li>✓ 核軍縮</li> <li>✓ 人権</li> <li>✓ テロ・国際犯罪</li> <li>✓ サイバーセキュリティ</li> <li>✓ 偽情報</li> <li>✓ 出入国管理</li> <li>✓ 平和構築</li> </ul>

岸田総理からは、これらの成果文書を実施に移すために、『『信頼』に基づく『共創』により目指す『平和と繁栄』のためのアクション』を発表しました。次世代共創パートナーシップー文化の WA2.0ー、国際共同研究や人材交流・育成等を通じた持続可能な研究者ネットワークの強化、若手ビジネスリーダーのネットワーク作り、ASEAN 事務局職員の奨学プログラム、アジア・ゼロエミッション共同体（AZEC）構想、日 ASEAN 次世代自動車産業共創イニシアティブ、連結性強化・気候変動対策・中小零細企業やスタ

ートアップ支援等のための民間投資の後押し、サイバーセキュリティ人材育成、ASEAN 防災人道支援調整センターを通じた人道支援などを含む幅広い内容です。

私自身、2023 年の早い段階から特別首脳会議に向けての準備に携わり、直前はジャカルタや東京で成果文書交渉も担当しました。その中で感じたことは、1977 年の福田ドクトリンで掲げた「心と心のふれ合う信頼関係」を長年にわたり培ってきたことの意義、そしてデジタル化やエネルギー・脱炭素をはじめ新たな課題に取り組むための「共創」の重要性です。これらがまさに日本の強みであり、今回の成果文書や日本のイニシアティブの基盤になっています。

### ■おわりに：日本と ASEAN、インド太平洋と世界の未来を創る

2024 年に入り、日本と ASEAN の新たな 50 年が始まりました。「共同ビジョン・ステートメント」で掲げたビジョンを、「実施計画」と『信頼』に基づく『共創』により目指す『平和と繁栄』のためのアクション」で今後どのように具体化していくべきなのでしょう。

これまで、1 月の経済同友会主催のハイブリッド・フォーラム、マレーシアのシンクタンク主催のセミナー、2 月のジャカルタでの日 ASEAN 友好協力 50 周年総括シンポジウム、東京でのアジア大洋州大使会議などの機会に議論し、考えを深めてきました。

重要なのは、「実施計画」の着実な実行です。「実施計画」に記載された 130 項目の具体的な内容をフォローアップすることを通じて、各々の分野で日 ASEAN 双方の幅広い関係機関による取組を推進し、相乗効果を生み出すとともに、新たなパートナーとの連携にもつなげることができます。このように、「実施計画」に魂を吹き込み「生きた文書」にすることで、地域と世界に大きなインパクトを生み出していくことがこれからの課題です。



2024 年 2 月にジャカルタで開催された日 ASEAN 友好協力 50 周年総括シンポジウム

外交の現場に携わる中で、世界を動かすのは「トップダウン」と「ボトムアップ」の組み合わせだと感じています。世界が様々な困難に直面する中、特別首脳会議の成果を活用して、日本と ASEAN、インド太平洋と世界の未来を創っていくのは、私たち一人ひとりです。日 ASEAN 間の様々な交流やビジネスを通じて「信頼」を深め、「共創」を実践することで、「平和と繁栄」の輪を大きく広げていきましょう。私も、皆様の活動を全力で後押ししていきたいと思えます。ご意見やご提案がありましたら、いつでも ASEAN 日本政府代表部にご連絡ください。これを機に、今後ともよろしく願い申し上げます。